

桜蔭俳話会

第一一五回通信句会 選句結果

平成二十六年秋。選句数は五句、うち特選一句。  
(○内の数字は、特選句数で選句の句の内数です)

火山灰やみて白煙高く初冠雪	幸	3点② 鴟猛る今に鄙なる丹波越	才美
4点① 秋澄むや宇宙より来る放射線	明美	3点① 名月やベープリツヂを大跨ぎ	忠夫
2点 七五三往き交ふ人の褒め言葉	眞壽	1点 七五三姉のおさがり嬉しいな	眞壽
8点① 名水を汲む人の列こぼれ萩	幸子	2点① 秋霖や対岸のビル遠のきぬ	友子
待ち合はせの大樹や高くばつた跳ぶ	友子	1点 久に逢ふ兄との窓辺時雨くる	清子
1点 秋冷を纏ひて湯殿の湯気に解く	幸枝	神無月夕べに早く戸を引きて	ツル
2点 ライト浴ぶ紅葉の葉裏侘びしかり	安紀子	2点 子鬼等の遊ぶ里かも櫛紅葉	才美
1点 秋澄むや日本丸の帆空いつばい	ヤエ子	七五三晴着なかなか捨てられず	眞壽
3点 カリソコリ足つぽに効く団栗や	直子	秋晴やバスの窓から富士さがす	幸子
交りのとうに深きや初紅葉	秀一	1点 バスパスを使へて気分秋土産	眞三
秋彼岸仰ぎ見し富士雪化粧	忠夫	2点① パソコンの消えゆく未来黄落期	明美
3点② 金木犀香りの路の覚へあり	ツル子	秋木曾路嫁と娘にお六櫛	幸
地下街をめぐりコーヒー秋日和	眞三	4点① 秋眠もありて是なりと朝寝する	幸枝
3点① スニーカーまだまだかろし草じらみ	弘子	銀杏を持ち来し人の今年逝く	ヤエ
2点① ゆく秋の読まねばならぬ句書いくつ	梅乃	6点① とりあえず羽織るもの欲し冬支度	弘子
8点① 小春日の赤子この世の匂ひ持ち	才美	3点 雁渡し電子ブックの青き文字	守
4点① 白旗を掲げて咲きし茗荷かな	のり子	7点③ 秋冷やいのち呑みたる山ひとつ	のり
2点 足柄の城址や風の女郎花	清子	2点 秋天を埋め尽くしたり杉古木	安紀
7点 木の実降る水に遅れて流れけり	守	2点 発売機紙幣押し出す秋の暮	梅五
仰むけり良夜に願ふ子らありて	ツル子	濃淡に紅葉競う花みづき	忠七
4点② 名月に溶けて眠りに落ちにけり	幸枝	3点① 鯛とんで心の棘の失せにけり	秀
1点 鮎色のぶり大根へ灯をともす	弘子	1点 秋の空飛行機好きの集いあり	直
懸崖の黄菊明るし客を待つ	友子		
5点 天高しカーブの先の一号車	のり子	(特選の○印の無い方が一人居られましたことを いたします。)	
芒ゆれ長生き祝う誕生日	直子		
6点 晩秋の物流の基地貨車の列	明美		
1点 ファックスの訃報はきだす秋の夕	梅乃		
三ヶ月や釣瓶落しの夜道行く	眞三		
5点③ 薦紅葉開くことのなき小窓かな	幸子		
2点 啼く犬を真似る鴉や秋うらら	清子		
1点 秋澄むや池塘の色は藍なりし	ヤエ子		
2点 青柚子の香広がる段畑	幸		
5点 採血の利き腕白し藍の花	守		
5点① 葛の花こぼるる沢や昼の月	秀一		
夕暮の古道染め上ぐ秋田かな	安紀子		